

南相馬市長 門馬 和夫 様

鹿島区地域ビジョンの活用について

平成 3 0 年 1 1 月 日

南相馬市鹿島区地域協議会
会長 遠藤 賢明

千年に一度と言われた未曾有の東日本大震災からの復旧・復興のため、日夜懸命な対応をしておられることに、心より敬意を表します。

さて、私たち鹿島区地域協議会では、平成26年2月に鹿島区地域ビジョンを作成し、同3月にこの活用について南相馬市長へ提言をいたし、その後の行政による復旧・復興の柱として事業を遂行していただいているところです。震災より7年が経過し、必要とされる事業が復旧の段階から復興の段階、さらには行政と市民が一体となって行う振興の段階へと移行していることから、これに対応するため、先に策定した鹿島区地域ビジョンに関する改定の検討を平成29年4月より始めました。

ビジョンの改定にあたっては、地域協議会だけに留まらず、行政区長会を通じて集めた各行政区の声、また一行政区にとどまらず面的な広がりを持った意見として、各地区のまちづくり委員会や各種団体からも意見を集めました。これを基に地域協議会で議論を重ねるとともに、一般社団法人電源地域振興センターの専門家派遣事業を活用してまちづくりの専門家より、鹿島区の現状と特性に合ったまちづくりを進めるための助言を得ました。これらを踏まえて、特に若年層や子育て世代が活躍し、産業・教育・地域活動等で将来の担い手となるための育成を支援する、また定住へ結びつけるために、地域で取り組むべき課題や地域の良さなどを6つの柱に集約・整理し、地域ビジョンの改定を行いました。

地域や住民自らが出来る課題などについては、今後、まちづくり委員会などを中心に、地域で共有して解決に向けた取組みを進めていくとともに、地域や住民だけで解決できない、行政の力が必要な課題などを明確化することで協働する環境を作るため、その両方を併せ、ビジョンに盛り込んでおります。

つきましては、これから策定される市の復興総合計画等にこの地域ビジョンを盛り込んでいただき、地域の振興に向けた取組みに活用していただきたく、ビジョンの策定報告と併せて提言いたします。